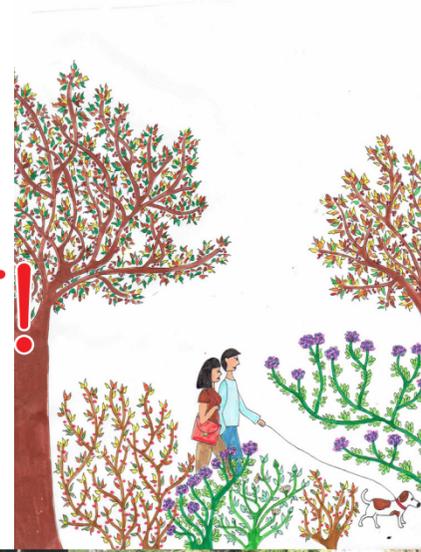


広町の森へ連れて行って!

今年も、ホタルを見に行くことで、夏が始まります。
秋には、たくさんのお花たちが迎えてくれます。
そして、冬には遠くに霊峰富士を望む――。
広町の森は、あなたが訪れるのを待っています。



広町の月(肥後正一さん)



赤い藻が浮く雨乞いの池(珍田宥充さん)



春待つ桜(中原攻さん)



広町の木道(白井誠一さん)

第1回「広町の森イラスト展&写真展」優秀作品発表

残念ながら、イラストの応募はありませんでした。
第2回も開催する予定ですので、広町の四季を写真やイラストで残しておいてください。

小網代の森を訪ねて

文と写真: 珍田宥充

2

月25日の日曜日、中原会長ほか10名で「小網代の森(三浦市三崎町小網代2255)」を視察しました。これは、連合会の2017年度活動計画にある自然環境保護全般に関する学習会の「環」として行われたものです。



「えのきテラス」で、ガイド役・矢部和弘(東京農大准教授(前列左から2人目))と視察メンバー



宮ノ前峠入り口に設置された、森全体の案内図



急斜面の散策路に設置されている、安全を期しての手すり付き木道



ホタル観賞場所付近の幅1.5メートルの木道(蓄光テープを貼り付け)



木に登ることもある、アカテガニの巣(冬眠中)

この森は、2014年に一般開放されましたが、1970年にゴルフ場開発や宅地開発の動きがあった状況下で、地元市民の反対運動を受けて1995年長洲知事時代に保存決定した歴史を持ちます。特徴は、森の中心部を流れる浦の川の流域が自然のまま残存し、森林、湿地、干潟及び海

までが連続して残存しています。アカテガニを初めとして、希少種を含む多くの生物が多様な生態系を形成している森です。1990年国際生態学会議で視察後、下流には干潟もある全国でも稀有な森として、絶対保存が必要と表明された森でもあります。また、この森の管理運営の主体は神奈川県であり、NPO法人小網代野外活動調整会(30名)が、県、市、トラストみどり財団を含め四者で環境保全活動に関する「覚書」を調印し管理方針を決めています。視察当日の現地ガイドは、NPO法人小網代野外活動調整会副代表で1989年から現在まで30年に亘り、森に携わっている矢部 和弘氏(東京農業大学准教授 地域環境科学部 森林総合科学科 森林土木専門)にお願いしました。以下、散策道中にてガイド・矢部氏が話された事をメモした内容です。

①案内板地図は各人口地点を基準にして作られていない。↓非常に不便で不親切。
②木道は幅1.5メートルで、ホタル観賞場所には危険防止のため手すりを備えて

いる。↓夜間利用者のため 特定場所には蓄光テープを設置している(5月頃ゲンジボタル、6月頃ヘイケボタル)
③森全域に木道があり(傾斜地も含め)、踊り場を兼ねた「テラス」が休憩場所にもなり非常に効果的(3か所に配置されている)。
④湿地の維持は難しい↓水路を高くして地面に水を入れる↓傾斜を付けて水を流すなどの工夫をしている。浦の川の適所に堰(せき)を作って、水たまりからの氾濫を促す。
⑤アカテガニは甲羅部分で5センチ、足を入れると10センチ↓活動期は6月頃からで、冬期間は冬眠状態。
⑥アオキは増殖すると、地面に光が入らなくなる↓それを阻止するため、絶えず監視して直ぐに刈り取るようにしている。川の中に光を入れる↓藻が発生する↓カワナガが息をする↓虫が育つ事や、アユの棲息が期待できる。
⑦希少種を含む多くの生物が多様な生態系を形成しているが、2011年の東日

本大震災で油壺海岸に津波が押し寄せた。↓その影響で干潟部分に生態系の変化が起きている。
⑧下流域には、「三浦めだか」や「日本赤ガエル」が生息しているが、雑草(外来種を含め)の撲滅に目を光らせる等管理している。↓手入れを怠ると雑草は繁殖する。
⑨動植物(菌類も含め)は現在2500種類確認、3000種になれば論文に着手する考えを持っている。
⑩「火気厳禁」の看板は見当たらなかったが、森の保全のため、大きな注意を要している。

以上の指摘がありました。
森の将来を考えた大きなビジョンに立ち、浦の川の源流から河口までの流域生態系を守るため様々な保全活動を展開していますが、その実態を視察する事ができました。
広町の森は海沿いではなく内陸で保全環境は異なりますが、参考にできることは多いに取り入れる方向で、検討すべきではないかと考えながら、帰途につきました。

森を楽しむ! 広町ウォーク 2018

文・奥田セイ子 写真・山田啓子

毎月第2土曜日の朝10時、
広町広場に集合!

小さな野草の花をルーペで覗くと、違った世界を見ることが出来ます。見慣れているはずの雑草の世界に思いがけない美しさが隠れていたことに驚かされます。そんな世界にお誘いします。

7月14日 はんげしょう



花穂の下の葉1~2枚の下半分が白くなり虫たちを無言で誘う。半夏生とは暦の上で夏至から11日目のことだが、このころに葉が半分白くなるのでこの名前がある。湿地に生える多年草で薬草としての効能がある。

9月8日 ハイキング



根が朝鮮人参に似ている。葉や茎の切り口から白い乳液をだす。花は下向きに開いて白緑色、内側には紫褐色の斑点がある。緑のところだけ赤っぽい。花冠は3cm内外で比較的大きい。山麓や林の縁などに生える。

10月13日 秋の草花



別名トネアザミ。茎は1~2m。花時には根生葉や茎下部の葉は枯れてしまう。茎の葉は互生し、長楕円形長さ20~30cmになる。花は秋横向きにたくさんつける。頭状花は紅紫色で、総苞は鐘形で径1~1.5cm。

花の長さ3cm内外。この根は植物界きっての猛毒アルカロイドを有する。毒が転じて薬草にもなる。花は青紫の兜形で美しい姿をしている。トリカブトの名は花の形が舞臺の時に使う伶人の冠に似ているから。



11月10日 秋の樹の実



初夏に淡い紫の花をつけ、秋には紫色の実をたくさんつける。和名はその優美な果実の姿を紫式部の名を借りて表現したものという。幹や太い枝は弧を描くように曲がることが多い。

この木の名前は、葉を触って匂いを嗅げばすぐわかる。臭いからクサギである。その臭いはカメムシの臭いに似ている。青緑色の果実は染料とされ、若葉はゆでて食用とする。その香りに誘われてアゲハ蝶などが群がる。



12月8日 紅葉



別名アケボノスギとも呼ばれる。1943年に中国揚子江の奥地で発見され、生きた化石として話題になった。落葉する針葉樹で、秋レンガ色になった葉はチリチリと落ちる。実は1.5cmの楕円形で、樹皮は縦向きの筋目立つ。

コナラとは「小さな葉の楕」の意味で、ナラの由来は「鳴る」であるとされる。吹く風に揺れる葉がふれあい音を出すことによる。樹皮は縦に不規則な割れ目が入り、老木になると割れ目が大きくなる。



1月12日 冬の花



属名ナルキッソスはギリシャ神話の美少年ナルキッソスに因んだもの。水面に映る自分の姿に恋をしたナルキッソスが水に身投げして死んでしまい、憐れんだ神が水辺に咲く水の花に変えたという。

和名は藪に生える椿の意味。椿の名の由来は葉が革質で艶があることから「艶葉木(つやばき)」。刀剣の鐔(つば)に似ていることから「鐔木」とする説などがある。材は固く細工物に利用。



2月9日 ハイキング



冬から春にかけて花をつける珍しい種類。実は初夏に青から赤に熟すが有毒。樹皮が丈夫でこれなら「鬼でも縛れるだんべ」というのでオニシバリになった。夏になると葉を落として丸坊主になるので別名ナツボウズ。

一つ一つの花のシルエットが傘をかぶって踊る踊子の姿に良く似ている。オドリコソウよりはずっと小さく越年草。ヨーロッパ原産の帰化植物で全国の田畑や人家の周辺にはびこって群生している。



3月9日 春の七草



春の七草の一つで正月の七草粥に使われる。耳元で振ると三味線のパチのような果実がペンと音を立てる。今ではこんな素朴な遊びをする子どもも少なくなったが、植物の名前の中に昔の野遊び文化が面影を残している。

春の七草の一つでおなじみ。コハコベは文字通り小振り。白い花弁は基部まで深く裂けるので10枚に見えるが実際は5枚。ウシハコベはコハコベより大きく、雌しべの先が5つに分かれているがこれは3裂。



ホタルが飛び立つまで

文・小野則子
写真・小野 勇

広町緑地では毎夏ゲンジボタルとヘイケボタルが飛び交います。ホタルが、どう成長するかを観察の体験を通して、お伝えします。ゲンジボタルは比較的きれいで緩やかな流れの小川に多く生息し、ヘイケボタルは流れのない水田や湿地に多く生息しています。夏に水辺の苔や草の根元に産み付けられた卵は約一か月で幼虫となり、水に入ります。水中に生息



ゲンジボタルの成虫 (御所谷川付近の葉の上)



ゲンジボタルの生息場所 (御所谷川の周辺)



カワニナ(ホタルの餌となる巻貝) 御所谷川にて

する巻貝のカワニナなどを餌にし、ヘイケは四回、ゲンジは六回脱皮して成長します。昼間は岩や草の下に隠れていて、夜活動します。幼虫は光るので、水面に目を凝らすと発見出来ます。

十分成長した幼虫は、四月〜五月、上陸し土に潜ってサナギになります。四月雨の降る夜、御所谷川で発光して川岸に上るゲンジの

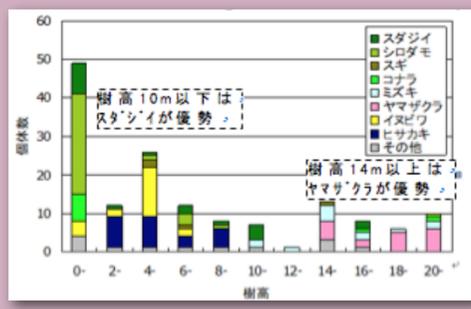
幼虫を発見した時は、自然の営みに感動しました。約一か月後サナギから成虫となり、飛び立ちます。生存は一週間から十日で、水のみで生きます。雌雄が光の信号を送りあい、相手を見つけ、子孫を残します。

飛ぶ時期は多少のずれはありますが、主に、ゲンジが六月、ヘイケが七月です。ゲンジの方が大きく、四秒に一回光り高く曲線を描いて飛びます。ヘイケは直線的に飛び、一秒に二回チカチカと短く光ります。

広町緑地のホタル保全には自然豊かな水系をはじめ良好な自然環境維持が必須です。皆で力を合わせ環境保全に努めていきましょう。



緑地のABCゾーン区分 広町緑地基本構想から



鎌倉の自然を守る連合会 広町緑地自然観察調査報告書2003年p29より

また、人為でも変わります。里山再生を目指す緑地はABC区分され、面積の多いB・C区域は最小限の手入れをする区域とされています。その結果何が残るか、人為による変化も含め、注意深い観察調査・議論が必要です。

昔は里山として手入れされていた森も、管理放棄により植生が変化していく実例を見た思いでした。一方、昔の里山の時代は逆に農業目的に間伐・萌芽更新・植樹される変化の多い森であったはずで、里山の自然は「放置」で変わり、

広町で自然観察のボランティア活動を始めた時に、仲間の方達が緑地の森の一定区画内の徹底的な樹木調査をしたことがありました。その結果わかったことは、山桜の高木など落葉樹主体のその区画の幼木は山桜などがなく、スダジイなどの常緑照葉樹の幼木が優勢になっていました。これはこの区画の樹木は数十年後には照葉樹の暗い森に移移していく可能性を示すものでした。

自然は変化する!

文・山田正夫

広町の来訪者から「この素晴らしい自然に手を加えないで残してほしい」という感想を頂くことがよくあります。緑地の保全活動ボランティアとして有難い言葉ですが、同時に多少戸惑いを覚えることがあります。戸惑いの原因は、今見えている自然は手を加えず放置すれば変化してしまうことが多いからです。